

平成 15 年度事業報告

平成 15 年 4 月 1 日

平成 16 年 3 月 31 日

1 事業の概況

丹沢山麓の里山は一見、以前と少しも変わらず美しい。しかし、一步近づいて見るとアズマネザサが、人が立ち入ることを拒むようにはびこっている。日当りの良いギャップのアズマネザサは密集し、ツルを伸ばした草が絡まり何ものをも寄せ付けられない凄みがある。かつて農家の人たちは里山の生態系の構成員といえるほど山に入り、コナラやクヌギの木を伐り、落ち葉をかき集めて利用してきた。その時、里山は息づいていた。しかし、今、収入を生まなくなった里山は放置されている。

その結果、雑木林を中心とする生態系が笹や照葉樹林に合った生態系に変わろうとしている。丹沢山麓の景観の中心は四季折々の美しさを醸す落葉広葉樹林だった。落葉樹の自然循環により山麓の生態系が構成され生物の多様性を育んできた。ところが萌芽をして新たな林として再生を繰り返してきた雑木林が放置されることで大木となり、更新が難しくなって来ている。手をこまねいてると故郷の原風景ともいえる里山景観が消えることになる。

里山とセットといえる里地も同様なことがいえる。高度経済成長は農家の兼業化を進め、農業後継者は工場などに働きに出た。しかし兼業とはいえ先代から後継者教育を受けた昭和一桁世代は農地を中心とした風土を大切にし、その結果美しい農村は守られてきた。そのヒトケタ世代は今若くて 70 歳。意思はあっても身体が言うことを利かなくなっている。農家であってもはじめからサラリーマンの子として育った現在の後継者の多くは農業後継者としての教育を受けておらず、農地の活性化にそれほど執着せず、収入の点でも農作業を必要としていない。結果として耕作放棄地は増え続ける。今後さらに増える背景にある。

人と自然の関係が美しい山麓の景観を構成してきた。農家は誰のためでもなく自分のために田畑を耕やし、作物を作った。山の落ち葉をかき集め、下草や、土手の草も刈り取った。この行為が生態系を生き生きさせた。しかし、今や、里山里地の管理は農家の人たちの負担になり始めている。

里山が絵の様に美しくとも、美術館のように入場料を支払うことはない。博

物館以上に生きた生物を住まわせても入館料はない。農家の個人の働きにより、森林が水を湛え、流量調節をしようと温暖化を防ごうと、空気をきれいにしようともその対価が支払われることはない。農家の労働の公の部分の評価が出来ていない。里山里地の持つ多面的な価値を評価して対応しなければ故郷の原風景は消えることになる。

こうした、里山里地がおかれた現状、背景を認識し、自然塾丹沢ドンは、農家が家族という最小の単位で技術と長い経験、そして多くの時間をかけて実施してきた農家の公の部分の多くの人を募り、人海戦術でやり遂げることを手法として、丹沢山麓の風土が育んだ伝統的景観の保全活動に取り組んだ。

事業はのんびり、無理せず、身の丈にあったものだった。伝統的農業技術の伝承は他に任せ、美しい風土を後世に伝えるため方策、そのための持続可能な農業を模索しつつ実践に移した。農薬そして化学肥料を否定した有機農業は、かつて非常識とされてきた。それが今、脚光を浴びているように持続可能な農業のための方法は他にもある。収穫物が真に安全で安心な物である為の、さらには農業経営が放棄され、田畑が耕作放棄されない為の農法を見出す努力を続けた。

事業会社でも行政でも農家でもない団体の活動に「すずめの学校」は似合わない。真摯に活動を楽しみたい人に義務感や細かな指示は馴染まない。「めだかの学校」よろしく全員が指導者であり、塾生で、誰言うことなく会話の中から進むべき方向が定められ、後はそれに従って群れなして動いてきた。群れの方角性に間違いはなかった。自然の中での活動は、人を純粋な気持ちにさせる力があるようで、久しぶりに子供に帰ったように時の経過を忘れたと多くの参加者に感じさせている。反面、指示待ち人の足は遠のいた。何をして良いのか分からないのかもしれない。やむをえない。能書きをいうよりまず実践、汗して達成感を共有してきた仲間には、これまでのところ、損得も人間関係のわずらわしさも介在しなかった。

事業活動の概要は次の通り。

2 庶務事項

(1) 助成

ア イオン環境財団

(財)イオン環境財団は地球市民の一員として地球環境の保全・地域環境の保全のために積極的、継続的に活動を行っている団体、個人を公募・選考して助成。二年連続 30万円

イ NPO法人モバイルコミュニケーション・ファンド ドコモ市民活動団体 助成事業 50万円

- ウ 秦野市里山ふれあい事業
里山管理に対して秦野市から
- エ ジャスコ秦野店 ヤオハン秦野店
「イオン幸せの黄色いレシートキャンペーン」
毎月11日を「イオンデー」と定めエコロジー（環境）とローカル（地域還元）をテーマに地域への貢献活動を行う日としている。
- オ わいわい秦野市場実行委員会 山麓展の開催に対して

（2）栄誉

- ア 神奈川地域社会事業賞（主催 神奈川新聞社、神奈川新聞厚生事業団）
福祉、国際交流、教育、町づくりなどの分野で自主的な取り組みを通して長年地域に貢献している市民レベルの活動を顕彰するもの。今回は47団体の応募があり、予備選考で20団体が選ばれ、選考委員会に提出され最終選考が行われ奨励賞を含む7団体が決定した。副賞30万円。

- イ 平成15年度手作り郷土（ふるさと）賞

（国土交通大臣 平成15年11月17日）

「手作り郷土賞」は地域の個性、魅力を創出している各種の良質な社会資本をひろく発掘し、これを紹介することによって個性的な地域づくりの一助とすることを目的に昭和61年度から、実施されている。平成15年度は地域整備部門において31作品、地域活動部門において20作品、合計51件の応募があり、都道府県で受け付けられた応募物件は各地方整備局で取りまとめられ選定委員会に提出され厳正な審査を経て地域整備部門13件、地域活動部門10件が選定された。

（3）会議の開催

平成15年度通常総会

日時 平成15年5月10日

会場 秦野駅前なでしこ会館

議題

平成14年度事業報告、決算報告

平成15年度事業計画、事業予算

3 事業の内容

（1）里山里地保全事業

丹沢山麓の伝統的景観を守るため関心のある希望者を募り山麓の風土、産業、

生産活動、生態系にあった山麓に変えていくための里山里地保全活動として自然塾を開催した。

ア 自然塾雑木林教室

日時 通年

場所 秦野市名古屋

イ 自然塾蕎麦教室

日時 平成 15 年 8 月から平成 15 年 12 月

場所 秦野市名古屋

ウ 自然塾麦作り教室

日時 平成 15 年 6 月から平成 16 年 3 月

場所 秦野市名古屋

エ 自然塾稲作り教室

日時 通年

場所 秦野市名古屋

4 環境学習事業

ア 鷹の渡りを見る会

日時 平成 15 年 4 月 19 日

場所 秦野市名古屋

イ 蛍観察会

日時 7 月 1 2 日

場所 名古屋

ウ 自然観察会（高桑さんと里山を歩く）

オ 「名古屋の自然」を発行した。

5 環境保全丹沢シンポジウム

日時 平成 16 年 3 月 2 8 日

会場 秦野駅前なでしこ会館

テーマ 「食の安全と農」

パネリスト 野口稔さん（北鎌倉湧水ネット）渡辺敦さん（大和ラブズ）
遠藤一生さん（地元農業経営者）岡 進さん（自然塾丹沢ドン会）

進行 片桐務さん（自然塾丹沢ドン会）

6 丹沢山地保全事業

裸地化が進む丹沢の尾根道、登山道を整備し、緑化のため種を散布した。

7 地域交流事業

- (1) 収穫祭の開催
- (2) 秦野市民の日事業に参加
- (3) 秦野市農業祭りに参加
- (4) 名古木地域祭りに参加

8 文化芸術事業

丹沢山麓展の開催

日時 11月22日から30日

会場 秦野市本町四つ角商店街

自然塾丹沢ドン会が独自で毎年開催していた山麓展に行政や商工会議所などが加わり、わいわい秦野市場として賑わいの創出を共催した。

9 広報事業

- (1) 会報ドンタンの発行
- (2) ホームページの充実
- (3) パブリシティ活動の実施

10 活動の記録

2003		
4月	4月5日	第5回地球博・高桑氏と里山を歩く
	12日	雑木林の管理
	19日	雑木林の管理、棚田の復元
5月	10日	通常総会
	17日	田おこし
	24日	畦塗り
6月	31日	畦塗り
	6月7日	田植え
	8日	田植え
7月	7月5日	除草、草刈
	12日	草刈、蛭観察、さなぶり

8月	19日	木工教室、雑木林の管理、炭焼き
	26日	炭焼き
9月	8月2日	駅前商店街フリーマーケットに参加
	10日	平内さん雑木林教室
	23日	蕎麦の種まき 棚田と雑木林の管理
9月	9月6日	棚田の除草 蕎麦の土寄せ
	13日	蕎麦の草取り
10月	20日	棚田の除草 稲刈り
	10月11日	
	19日	脱穀
11月	26日	木工教室
	11月2日	籾摺り
12月	8日	蕎麦の刈り取り 里山観察
	15日	神奈川地域社会事業賞受賞式（横浜ローズホテル） 蕎麦の脱穀 名古屋自治会祭り
	16日	東海大収穫祭
	17日	手づくり郷土賞受賞（さいたま合同庁舎）
	21日	バイオトイレ設置 山麓展準備
	22日	秦野市農業祭りに参加 山麓展 30日まで
	23日	麦撒き 炭焼き
	30日	山麓展最終日
	12月6日	収穫祭
	20日	里山作業
2004 1月	1月10日	雑木林管理 麦踏み
2月	24日	雑木林管理
	31日	全体会議
	2月7日	棚田周辺整備 里山管理（落ち葉掻き）
	14日	堆肥場づくり 落ち葉掻き

3月	21日	堆肥場づくり 落ち葉掻き
	28日	全体会議 スケジュール調整
	3月6日	炭材と椎茸菌、栗茸菌移植
	27日	里山管理
	28日	第9回丹沢シンポジウム
